

おおくらだより

平成30年10月26日 発行責任 校長 藤井 英貴

★学校ホームページ : <http://www.kita9.ed.jp/okura-e/>

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	話す・聞く能力や、読む能力に関して、正答率の高い傾向が見られる。特に、文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題がよくできていた。その一方で、書く能力がわずかながら全国の平均正答率よりも低い。	上回っている
国語B	話す・聞く能力や、書く能力に関して、全国の平均正答率よりも高い傾向が見られる。中でも、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題がよくできている。	上回っている
算数A	全体的に全国平均正答率よりも高い。中でも、領域では「数と計算」や「図形」が高く、能力面では数量や図形についての知識・理解に関して、高い傾向が見られる。	上回っている
算数B	全体的に、平均正答率が全国よりも大きく上回っている。特に、「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」の領域での正答率が高い傾向にある。また、能力面では数学的な考え方の能力が高い。	上回っている
理科	科学的な思考・表現における能力が高い傾向が見られる。特に、調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析する問題がよくできていた。一方で、自然事象についての知識・理解の能力がわずかながら全国よりも低い。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○学校でのきまりを守り、すべての子どもが「いじめはどんな理由があってもいけないこと」という意識をもっている。</p> <p>○家では、毎日同じくらいの時刻に起きたり寝たりしている子どもが多い。</p> <p>○家での学習面では、自分で計画を立てて勉強をしたり、家で学校の授業の予習・復習をしたりする子どもが多く、80%の子どもが1日あたり1時間以上家庭学習をしている。</p> <p>○福岡県全体や全国の集計に比べて、本校は地域とのかかわりが顕著に高く、地域のことを調べたり地域の人々とかかわったりする機会が多い。そして、地域の行事やボランティア活動に参加し、地域や社会をよくするためになにをすべきかを考える子どもが多い。</p>

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

読書の機会を増やしたり、学力補充の時間での「音読タイム」「パワポタイム」のような「声に出してひたすら読む」活動を充実させたりすることで、読解力を高めていきたい。それによって、国語の読む能力をはじめ、様々な教科での問題の読み取りや、資料を読んで調べる活動などに生かせるようにしたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

地域との結びつきを大切にするため、あいさつの励行に努める。また、家庭学習をさらに推進し、その方法や具体的な学習の内容を、通信や学校ホームページなどを活用して広報して、保護者にも啓発していきたい。